

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1294400013
法人名	株式会社 ハンドレッド
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	千葉県印旛郡栄町竜角寺台4-1 8-1 (電話) 0476-29-4777
評価機関名	NPO法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-1 0
訪問調査日	平成19年7月20日

## 【情報提供票よ】 (平成19年7月8日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤22人, 非常勤0人, 常勤換算11.44人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての全部
------	-----------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6万円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(30万円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,480 円		

## (4) 利用者の概要(7月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北総栄病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、閑静な住宅街の中に位置しており、周囲は緑に囲まれ生活環境は非常に良好である。事業所は、「グループによる共生の生活づくり」を理念に掲げ、運営者、管理者、職員は、利用者や家族とともにその実践に向けて熱心に取り組んでいる。職員は、明るく礼儀正しい。ホームは、平成18年10月の開設で、明るい色調をベースに清潔感があり、設備面も防犯・防災設備等が充実している。これからの課題は、教育・研修や防災訓練などのソフト面の充実である。多くの業務で、計画・実施・反省・改善(PDCA)のサイクルを構築し一層の質の向上を期待する。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は、自己評価の重要性を認識し、外部評価はそれを補完するものであるということを理解して取り組んでいる。今回の評価を契機に、提供しているサービスの課題を抽出し、全員でその改善に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 本年3月に初めて運営推進会議が開催された。出席者は、利用者、家族、行政代表などである。初回なので、議題は報告が主であったが、これからはホームの運営・評価や行政との連携なども議題にし、双方向性のある会議になることを望む。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等への報告・連絡はこまめに行われている。方法は、来訪時の面談やホームから電話連絡などである。一方、意見、苦情、相談の窓口を設けているが、今のところあまり苦情等は多くはない。家族アンケートの回答では、利用者や家族はホームの運営・対応に非常に感謝している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の自治会に加盟し、草取り等の行事にも参加して、交流を図っている。また、ホーム側からも介護等の相談にのることも行っている。開設してまだ1年未満であり、今後更に、いろいろな行事に参加し、地元の人びととの交流を一層深めていって欲しい。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム利用の案内に、「グループホームはるかぜの理念」が明示されている。内容は、共生による生活と充実した生活づくりをうたったもので、事業所独自の理念である。	○	事業所の理念は、事業所が目指すサービスのあり方を示したものである。したがって関係者が常に見ることが出来るよう、掲示などの工夫をして欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時や会議などで、理念の共有に努め、実践面でもリビングで一緒に過ごすなど「共生」の努力が見られる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入している。お祭りや草取りなどの行事に参加し、地元の人びととの交流に努めている。また、夏祭りには、介護相談コーナーを設け、介護関係についての相談にのっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価である。運営者、管理者は、今回の評価に前向きに取り組んでいる。	○	今回が初めての評価なので、これを契機に評価のPDCAサイクルを構築し、見いだされた課題について、積極的に改善に取り組んでいくことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に第1回の運営推進会議が行われた。2回目は、今月の予定である。参加者は、事業者の他、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センターの職員である。最初なので、議題は報告が多い。	○	会議の目的は、「事業所の活動を説明し、助言を得ながら地域に開かれたサービスとして質の確保を図る」となっており、開催頻度は概ね2ヶ月に1回以上である。これから、軌道にのせて欲しい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村（介護保険課）との連携は、頻繁に行っている。行政側も、非常に協力的である。例えば、他市町村の利用者の一部受け入れ等についての話し合いなど。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時を中心に、詳細な報告や連絡を行っており、来訪できない人には定期的に状況を報告している。また、何か変化があったときは、その都度連絡を取っている。金銭管理も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保と向上のためには、家族等の率直な意見・苦情等を活かす必要が在り、その窓口を、事業所と町役場に設け対応している。現在のところ苦情等は、あまりない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職は少なくする努力をしているが、既にやめた人もいる。代わる場合のダメージを防ぐ方法としては、利用者が多くの職員と馴染みになっていることが大切と考え、外での食事会などの機会を設けるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、事業所外の研修に積極的に参加して質の向上に努めている。そして、研修内容の報告を行い情報の共有を図っている。働きながらの自己研修には、介護関連の本やネットの活用をしている。	○	管理者や職員を段階的に育成するために、各自の立場、経験などに応じた教育研修計画が欲しい。内容としては、提供するサービスの質の向上、資格取得などである。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所して1年未満であり、不定期であるが同業者との協議会へ参加し交流をはじめている。	○	管理者や運営者の地域の同業者との交流を一層充実して欲しい。それにより、事業所の課題の解決や緊急時の連携をスムーズに行えるようになるなどメリットは大きい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の時、ホームについての説明を丁寧に行うようにしている。その他、馴染むまで数日から1ヶ月の試泊や、週末の帰宅などの工夫をしている。また、家族が泊まったりして、ゆっくり話せる機会なども設けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とともにアットホームな関係を築いている。キッチンやリビングでよく話して耳を傾けたり、一緒に洗濯物を取り入れたり、片付けなどを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握するため、管理者も入って、利用者によく話すように努めている。その日のことは、その日のうちに解決するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等、必要な関係者の意見等を取り入れた一人ひとりの具体的な介護計画を作成している。その実施結果も、詳細に記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や利用者の要望などに応じて、定期的に見直しを行っている。変化があった場合は、家族との打ち合わせや担当者会議を行って、臨機応変に見直しを行っている。	○	介護計画の定期的な見直しの間隔について、現実を見ながらどれくらいがよいか検討して欲しい。その事業所に合った頻度があると思う。月に1回程度が好ましいという情報がある。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所自体の機能ではないが、訪問美容や訪問歯科のサービスを行っていて、利用者に喜ばれている。また、家族が同室で宿泊が出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望を聞いて、主力の北総栄病院の他数箇所の病院、近隣の医院（眼科、皮膚科）を利用できるようにしている。受診結果は、家族が聞く場合、事業所が聞く場合があるが情報は共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、契約時に説明している。実際に重度化した場合等について、家族・医師を交えて相談し、対応を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応を見ると、利用者の誇りやプライバシーを守って接していることがわかる。個人情報保護関係では、面会票を一件一葉にするなど工夫している。	○	法令遵守とともに個人情報保護が重要視されている。外部へ個人情報が漏れないよう、個人情報保護に関する内部研修やその徹底にホームを挙げて取り組んで欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務体制を工夫するなどにより、利用者のペースに合わせたケアが出来るよう努力している。しかし、ある程度の規律も必要と考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アンケートでは、食事はバラエティーに富み内容も大変よいという意見が多く、利用者は満足している。利用者は、調理を手伝ったり、盛り付けや片づけも職員と一緒にっており食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を拒む人には、1日おきにするなど。一人ひとりの希望にあわせた入浴の支援をしている。しかし、保清の面からは、ある程度の規律も必要と考えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとでははり絵や俳句など、役割では、配膳・下膳、掃除、洗濯物たたみなどを手伝ってもらっている。リビングの壁には、利用者の作品が沢山飾られていて、張り合いや喜びになっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	みんなでの外出は、大変よく行われている。例えば、花見（さくら、あじさい）、いちご狩り、買い物、外食などである。	○	アンケートには、もう少し外出したいという意見がある。恐らく、日常的な外出のことと思われるが、利用者の意向を確認し、対応を検討してほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関や居室には鍵をかけていないが、内玄関には日中鍵をかけている。鍵をかけない暮らしの大切さは、認識しているが、安全上やむをえないと考えている。	○	鍵をかけないケアは理想ではあるが、利用者の安全を考えると難しい点がある。運営推進会議や同業者等とこの課題について話し合ってみて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一斉通報設備、消火器、スプリンクラーなど防災設備は整っている。これから、防災マニュアル作成等のソフト面の整備が必要である。	○	不測の事態に対応すべく、急いで①防災マニュアルの作成②災害を想定した防災訓練の実施を望む。特に、避難訓練は、出来るだけ早急に実施し、定例化して欲しい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の記録をこまかくとり、摂取量や栄養バランス等を管理している。週間献立カレンダーがあり、毎日の朝食、昼食、夕食のカロリー、栄養、塩分等を知ることが出来る。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、静かで明るく大変居心地がよい。特に壁にかけられている風景を描いた絵画は、ダイニング・リビングに落ち着いた雰囲気をかもしだしている。周囲は樹木が多く、季節をよく味わうことが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた箆笥やハンガー掛けなどの小物が揃えられていて、本人が居心地よく過ごせるようになっている。ベッドが多いが、畳に布団を敷いている人もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。